

(人文・社会科学専攻)

(注意) 解答はすべて別紙解答用紙の定められた欄または枠内に記入せよ。正しく記入していない場合には採点されない
ので注意せよ。

1 次の空欄(①)～(⑦)に最も適当な語句を記入し、問1～3に答えよ。ただし、同一番号には、同じ言葉が入る。

イエスの死後、キリスト教をユダヤ人以外の諸民族に広め、世界宗教へと発展させる基礎を築いたのは、使徒ペテロや(①)などによる伝道活動であった。ローマ市民権を持つパリサイ派のユダヤ人であった(①)は、かつてキリスト教徒迫害の先頭に立っていたが、復活したイエスの声を聞いて決定的な回心を経験した後、福音の伝道者となった。(①)は、民族や階級などの社会的枠組みには限定されない普遍的な教会論を唱え、イエス・キリストが(②)ある人類の身代わりとして、その(②)を贖うために、十字架の上で犠牲となって死んだと説いた。つまり、(①)によれば、十字架につけられたキリストを信じることによって、(②)に支配された古い自分から解放されるというのであった。さらに(①)は、「コリントの信徒への手紙 I」の中で「愛は決して滅びない。……(③)と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である」と記した。そしてキリスト教の三元徳として、信徒の間では(③)と希望と愛が尊重された。

古代ローマ世界にキリスト教が普及し始めると、異教的な勢力の攻撃に対する教会側からの弁明の必要性が生じた。この頃、アレクサンドリアのクレメンスやアタナシウスのように、(④)と呼ばれた教会の指導者たちによって、三位一体論などのキリスト教の教えが次第に整備され、正統的な教義が確立されていった。(④)哲学を生み出した人物の中で、ヨーロッパ社会に最も大きな思想的痕跡を残したのは、北アフリカのタガステ出身の(⑤)であった。(⑤)は、『告白』の前半部分で、回心に至るまでの放縦な生活のありさまや精神的な葛藤の変遷について、神に語りかける形式で率直に著した。また(⑤)は、永遠の都ローマの滅亡の原因がキリスト教にあるという異教徒からの非難に対して答えるために、人類の歴史を考察して、22巻の大作を完成させた。

中世カトリックの神学は、主に教会・修道院の付属学校や大学で研究されていたので、(⑥)哲学と呼ばれた。13世紀に(⑥)哲学の大成者として活躍したのは、『神学大全』や『対異教徒大全』などの著書を残した(⑦)であった。(⑦)は、古代ギリシア哲学を用いてキリスト教の神学を体系化し、「(神の)恩寵は自然を破壊せず、かえって自然を完成させる」と説き、(③)の優位を前提として、神の啓示の光と自然の光、つまり(③)と理性の調和をはかろうとした。(⑦)によれば、(③)は神の啓示であり、理性は神によって造られた自然であり、両者は同じ真理の源泉へとさかのぼるのであるから、相互に矛盾・対立することはないというのであった。

問1 下線部(1)に関連して、キリスト教的な愛であるアガペーとはどのような特質を持ったものか、簡潔に説明しなさい。

問2 下線部(2)に関連して、(⑤)が執筆した著書を、次の(a)～(d)の中から選び、記号で答えなさい。

(a) 『神の国』 (b) 『キリスト者の自由』 (c) 『キリスト教綱要』 (d) 『神曲』

問3 下線部(3)に関連して、(⑦)に最も大きな影響を与えた哲学者を、次の(a)～(d)の中から選び、記号で答えなさい。

(a) モンテーニュ (b) アリストテレス (c) エラスムス (d) ピコ・デラ・ミランドラ

2 次の空欄(①)～(⑨)に最も適当な語句を記入し、問1に答えよ。ただし、同一番号には、同じ言葉が入る。

明治維新後、日本は西洋文明を取り入れることによって急速な近代化を推し進めた。こうした西洋文明の受容による近代化は、日本の伝統的な文化や価値観との摩擦を引き起こさざるをえなかった。また行き過ぎた欧化主義や西洋崇拜は、日本文化の固有性や日本人としての主体性への問いを知識人たちに突きつけることになった。

明治半ばごろ、三宅雪嶺や志賀重昂は明治政府の性急な欧化政策に反対して(①)を唱えた。これは日本の文化や伝統を保存しつつ、その基盤の上に西洋の文明を取捨選択して取り入れるという漸進的な近代化を説くものであり、単なる復古主義ではなく、また日本の特殊性を絶対視するものでもなかったことは注意されるべきである。

近代日本を代表する小説家(②)は日本の近代化について、それを西洋の圧力のもとでなされた「外発的(③)」にすぎず、「内発的(③)」でない」と指摘した。彼は講演「私の個人主義」において、自身が英文学の研究で苦労した経験を引き合いに出しながら、たとえば西洋の文学に関しても、西洋人が述べることをそのまま受け売りするのではなく、自身の確固たる立脚点を定めたいと、それに基づいた判断を下せばよいという境地に達したことについて語っている。そのように他者に迎合せず、おのれ自身に拠って立つあり方を彼は(④)と呼んでいる。さらに(②)は、この(④)のあり方に基づく個性の発展は同時に他人の自由を尊重すべきであること、また権力や金力を使用して他人の個性の発展を妨げてはならないことを強調している。このように彼が(④)や個人主義と呼んでいるようなあり方は、自分の個性を發展させる自由と他者の自由の尊重という両面を含むものとして理解されなければならないのである。

ところで彼の有名な小説『三四郎』では、東京帝国大学の学生という設定の主人公三四郎が哲学の授業を聴講する場面があるが、そこでドイツ哲学についての講義を行っている教師のモデルとなったのが、井上哲次郎であった。井上はドイツに6年間留学し、ドイツ哲学を日本に移入し、⁽¹⁾ドイツ観念論と伝統的な仏教を結合した「現象即实在論」を唱え、東西の思想の総合を試みた。また彼は教育勅語の注釈書を著すとともに、キリスト教を教育勅語の精神に反するものとして厳しく批判した。

東京帝国大学でこの井上に学んだ経験を持つのが、日本を代表する哲学者(⑤)と(⑥)である。(⑤)は自らの禅の修行の体験にも依拠しながら、1911年に刊行された『(⑦)』において、たとえばわれわれが音楽に心を奪われて我を忘れている状態に見られるような、反省が加わる以前の主客未分の直接的な状態を(⑧)と呼び、それを唯一の实在と見なした。この(⑧)の自発自展的な分化発展により、個を超えた大いなる自己が実現されるのである。

(⑥)は「人間」という語が、個人を意味するとともに人と人との(⑨)をも指していることを指摘し、人間が個人的であると同時に社会的であるという二重性格を持つことを強調した。こうして彼は人間を孤立した個人として捉える西洋近代の人間観を批判しつつ、人間を(⑨)的存在として捉える独自の倫理学を構築したのである。

問1 下線部(1)について、ドイツ観念論の哲学者を、次の(a)～(d)の中から選び、記号で答えなさい。

- (a) コント (b) デカルト (c) フィヒテ (d) ニーチェ

3 次の文章を読んで、問題に答えなさい。

社会保障政策とは、貧困、疾病および老齢などの生活不安や、失業、災害、事故などの生活困窮に対して、政府が国民の最低限の生活を保障する政策を指す。社会保障には、公的扶助、社会保険、社会福祉および公衆衛生が含まれる。そのうち^④ ア は、病気、けが、老齢および労働災害などに対して現金やサービスを給付する制度であり、社会保障の中心を占めている。

このような 社会保障政策は、国民の最低限度の生活を保障する責任の所在を政府に求める思潮が一般的になるにつれ、現代ではさまざまな国でとられるようになってきた。そしてそのような思潮は、各人の最低限度の生活を確保する責任を自己に求める イ の原則と矛盾しうる。どのようにして両者を適切に関係づけるかという問題は、社会保障政策を考える上で最も難しい問題のひとつである。

あるべき社会保障政策を考える上では、社会権の保障が重要な課題となる。20世紀に入って、とりわけ、失業、貧困および経済恐慌などの資本主義の負の側面が明らかになるにつれ、社会権保障の重要性が広く認知されるようになり、憲法のなかに社会権の規定を明文化する国もみられるようになってきた。日本国憲法にも、このような社会権についてさまざまな明文規定が置かれ、日本国憲法第25条1項では、生存権について、「すべて国民は、ウ を営む権利を有する。」と定められている。この規定の法的性質につき、裁判上の救済を受けることのできる法的権利を個々の国民に与えたものとする法的権利説と、国政の政治的・道義的な努力目標を宣言したにとどまるものとする エ 説が対立している。最高裁は、オ 訴訟判決のなかで、ウ の内容の決定に関して厚生大臣の裁量を広く認める判断を下し、後者に近い考え方をとっている。

このように社会保障制度の構築のあり方に国会や行政部門の広い裁量が認められるとしても、真に国民が人間らしい生活を営むことができるような制度のあり方が、たえず模索されなくてはならないであろう。

問1 空欄 ア ~ オ に適切な語句を記入しなさい。

問2 下線部④について、次の選択肢のうち、誤った内容を含むものを選択しなさい。

- ① 感染症対策のための予防接種の実施は、公衆衛生である。
- ② 生活困窮者に対する生活保護の給付は、公的扶助である。
- ③ 障がい者の雇用促進のための職業訓練の実施は、社会保険である。
- ④ 児童に対する育児施設の提供は、社会福祉である。

問3 下線部⑥について、次の選択肢のうち、誤った内容を含むものを選択しなさい。

- ① すべての国民が年金制度に加入することを国民皆年金という。1959年の国民年金法の制定によって、1961年に国民皆年金の制度が整備された。
- ② 賦課方式は、将来の年金給付のために積み立てられた保険料を原資とする方式である。
- ③ 要介護状態として認定された高齢者がデイケア、ショートステイおよび施設入所などのサービスを選択して受けることができるようにするために、2000年に公的介護保険制度が開始された。
- ④ 厚生年金は、民間企業の被用者を対象とする、強制加入の拠出制年金保険である。

問4 下線部③について、次の選択肢のうち、正しいものを選択しなさい。正しい選択肢がない場合は、×を記入しなさい。

- ① イギリスでは、1601年に、貧困階層を対象として慈恵的恩恵の施策を実施することを定めるエリザベス救貧法が制定された。
- ② イギリスでは、1940年代のビバリッジ（ベバリッジ）報告のなかで、戦時における財政的困難を理由として、国民の全生涯について生活保障をなす責務を政府がはたすことができないことを表明した。
- ③ アメリカでは、社会保障政策は怠惰を促進するものであるとの考え方から、1930年代のニューディール政策の時期にも社会保障立法はなされていない。
- ④ ドイツでは、ビスマルクが、19世紀後半に、労働者弾圧政策の一環として、疾病保険法などの社会保障政策を廃止した。

問5 下線部㉔について、次の選択肢のうち、社会権として分類されるものを選択しなさい。

- ① 請願権 ② 労働基本権 ③ 思想・良心の自由 ④ 刑事補償請求権

問6 下線部㉕について、1919年に制定されたドイツの憲法のなかでは、「経済生活の秩序は、すべての者に人間たるに値する生活を保障する目的をもつ正義の原則に適合しなければならない」(第151条1項)と規定された。このドイツの憲法の名称を答えなさい。

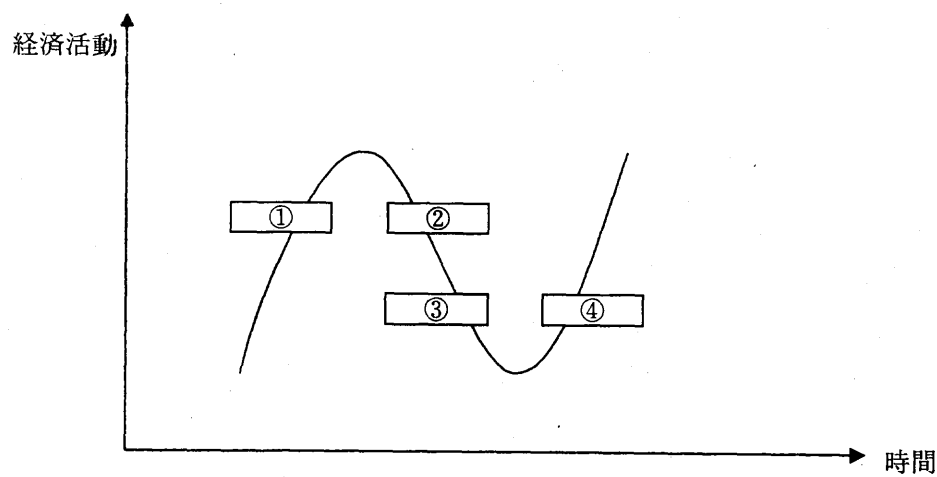
4 次の文章を読んで空欄 ① ~ ⑩ に最も適切な用語を記入しなさい。

景気循環(景気変動)は、以下の[図1]で描かれるように、①, ②, ③, ④の四つの局面に区分される。①期における投資の増加は、生産力を拡大させる。しかし、これに需要の増大がともなわない場合は、生産が過剰になり、企業の倒産なども見られるようになる。これが②期で、生産が減退し、失業が増大する。この②が、急激に生じる場合を特に⑤と呼ぶ。いずれにしても、いったん下方に向かいはじめた経済活動は、③期をむかえることになる。③期では、投資意欲は冷え切り、多くの企業の倒産が見られ、失業の規模も大きくなる。しかし、在庫の整理や機械設備の縮小が行われることにより、これも底を打ち、やがて設備や原料などへの投資が試みられ、需要の増加、生産や雇用の拡張がすすむ。これが、④期である。

さて、景気循環(景気変動)には、さまざまな種類があるが、もっとも主要なものは、8年から10年のサイクルを持つ⑥の波である。これは、設備投資の増減が原因であると考えられている。これよりも短く、3年から4年の周期を持つ⑦の波がある。これは、在庫の増減が原因と考えられている。また、15年から25年の周期を持つ⑧の波もある。これは、建設投資の増減が原因であると考えられている。さらに、50年から60年の周期を持つ⑨の波も存在する。これは、技術革新や大規模な資源開発などが原因と考えられている。

政府は、財政政策や金融政策を組み合わせ、いわゆる⑩を用いることにより、景気循環(景気変動)を緩和し、景気の安定を試みる。しかし、経済政策により景気循環(景気変動)を完全になくすことは困難である。

[図1] 景気循環(景気変動)の四局面



5 次の文章を読んで、問題に答えなさい。

第二次世界大戦が終わるとまもなく、戦争中は同盟国であったアメリカとソ連の関係は、悪化しはじめた。東欧に次々と社会主義政権が誕生したことに危機感を強めたアメリカは、1947年以降、 ① ・ドクトリンや ② ・プランを通じて、自由主義勢力の結束をはかり、社会主義勢力の拡大を阻止する「封じ込め政策」をとった。さらに、1949年には、北大西洋条約機構を結成して、西側陣営の軍事的結束を強化した。これに対抗して、ソ連も、コミンフォルムや経済相互援助会議を設立して、政治的・経済的結束を強めた。また、1955年には、 ③ 条約機構を結成して、東側陣営の軍事的結束を強化した。いわゆる「冷戦」体制の成立である。

両陣営は、軍隊の主力をヨーロッパ中央部に集中させており、その意味では、対立はヨーロッパにおいてもっとも厳しい状況にあった。しかし、ヨーロッパで戦争が起これば、核兵器を用いた第三次世界大戦に発展する恐れも大きく、実際の戦争は、⁽¹⁾むしろヨーロッパ以外の地域で勃発した。

1962年には、キューバにソ連がミサイル基地を建設しようとしたことにアメリカが強く反発し、核戦争の瀬戸際にまでいたった「キューバ危機」が生じた。⁽²⁾しかし、この事件を契機に、米ソ両国は、ホットラインを設置し、核兵器削減のための話し合いなどもたれるようになった。米ソ関係は、デタントへと向かうのである。

こうしたなかで、米ソを中心とする二極化構造も、しだいに変化しはじめる。一方の、西側陣営では、1960年代になると、日本やドイツが経済を復興させ、国際社会での発言力を強めた。また、1966年には、フランスが北大西洋条約機構の軍事機構から脱退した。⁽³⁾他方の、東側陣営でも、すでに1950年代末から、「中ソ対立」が表面化していたが、1969年には国境紛争も起きた。また、東欧でも、ソ連から自立した政策をとろうとする国が現われた。米ソの二極に集中していた力が、他の国々に拡散するこのような現象を「多極化」と呼ぶ。

1979年にソ連が ④ に侵攻したことで、デタントは終わり、米ソ関係は再び悪化した。これが「新冷戦」である。しかし、1985年にソ連でゴルバチョフ政権が成立すると、対立は急速に弱まった。ソ連が社会的・経済的停滞を建て直そうとする「 ⑤ 」⁽⁴⁾と呼ばれる改革を進めるため、西側陣営との関係改善をはかったからである。1989年には、東西対立の象徴であった「ベルリンの壁」が崩され、同年末には、米ソの首脳が「マルタ会談」で、冷戦の終結を宣言するにいたった。

問1 空欄の①～⑤に入る語句を記入しなさい。

問2 下線部(1)に関連して、冷戦を背景に、アジアで、1950年6月に勃発した戦争は何か、答えなさい。

問3 下線部(2)に関連して、この当時のアメリカの大統領とソ連の共産党第一書記は誰か、答えなさい。

問4 下線部(3)に関連して、この政策を推し進めた当時のフランスの大統領は誰か、答えなさい。

問5 下線部(4)に関連して、ゴルバチョフ政権がとった、イデオロギーから脱却し、西側諸国との協調に向かおうとする外交方針を何と呼ぶか、答えなさい。

6 次の文章を読み、 ~ に当てはまる語句を解答欄に記入しなさい。

a. 国際裁判は、主権国家相互の関係を規律する国際法が発展する中で、国家間の紛争を法的に解決するために構築された制度である。第一次世界大戦の後には国際連盟の下で が設立され、国際紛争の解決に際し重要な役割を果たした。その任務は、国際連合の下では に引き継がれている。

21世紀に入ると、個人の責任を国際的に追及するための国際裁判所も、新たに活動を開始している。2003年に発足した は、侵略犯罪、集団殺害犯罪、、 といった国際犯罪を対象として司法活動を行う機関である。

b. 人権保障への国際的な取り組みは、第二次世界大戦後活発になった。国際連合の一機関である は、1948年の決議により を採択し、国際的な人権保障の基準を明示した。さらに1966年には、この決議の内容をもとに、国際的な法的拘束力を持った が採択され、人権保障に関する国際法の整備が進められた。

国際連合は、さまざまな分野で人権保障の問題に取り組んでいる。例えば、内戦や民族紛争により大量発生した難民の保護については、国際連合の補助機関である が、また食糧問題に対応するための緊急援助や技術援助については、同じく国際連合の補助機関である 計画が、それぞれ積極的な活動を展開している。